



Facebook



大分県 NPO ポータル



おしラボ。



地域社会の、
大事なパズルピースに

ご挨拶

～共創で挑む、新しい社会課題解決～

このたびは特定非営利活動法人 Oita Social Innovation Laboratory の活動にご関心をお寄せいただき、誠にありがとうございます。

現在、大分県は人口減少に伴う担い手不足、地域経済の活力減退、VUCA(将来の予測が非常に困難な不安定な状況)へのリソース配分など、非常に多くの課題に直面しています。これらの課題は、従来のやり方では乗り越えられません。

私たちは、この困難な時代だからこそ、地域課題を解決しつつ収益を生み出す「ソーシャル・イノベーション」が必要だと強く感じています。当法人は、地域をより良くしたいという「志」を持つ個人や団体に対し、その事業アイデアが安全に、そして確実に離陸するための支援を行っています。特に、SX(サステナブルトランスフォーメーション)推進を軸とした革新的な事業創出や、次世代の地域経済を牽引する人材の育成に注力しています。学生、企業、行政など、多様な主体が交わり、知識や技術を共有する「共創の場」こそが「ソーシャル・イノベーション」を生み出す源泉です。

これからも、経営計画に沿った活動を通じ、持続可能で活力ある地域社会の実現に貢献することを約束するとともに、未来を創り出す地域の挑戦者の皆様と共に、知恵を出し合い、真に活力ある未来を構築していくため、SX(サステナブル・トランスフォーメーション)を地域経済の実践へ落とし込む「変革の起点」となり活動してまいります。

皆様の温かいご理解とご支援、そしてぜひ積極的な活動への参画を心よりお待ち申し上げております。

特定非営利活動法人 Oita Social Innovation Laboratory

理事長 : 高木 厚次

副理事長 : 安部 慎次、山崎 美和

理事議長 : 後小路 舞

監事 : 江藤 彰悟



1. 法人概要



(1) 法人名
特定非営利活動法人 Oita Social Innovation Laboratory
(愛称、おしラボ。)

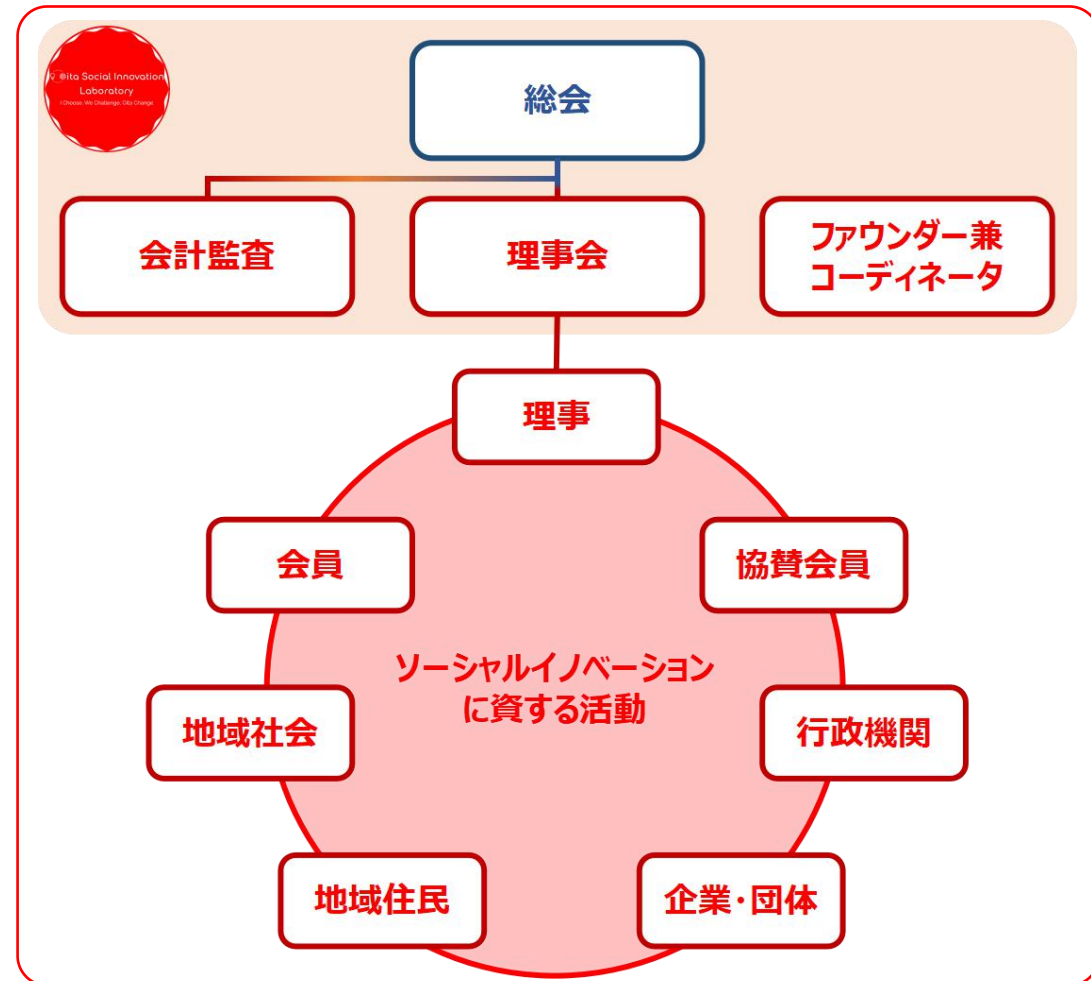
(2) 設立年月日
2024年2月1日

(3) 会員総数 (2025年度末)
25名

(4) 理事

| No. | 役職 | 氏名 | 本法人のサステナビリティ経営スキル・マトリクス | | | |
|-----|------|-------|-------------------------|------|---------|-----|
| | | | 組織経営 | 事業経験 | イノベーション | 多様性 |
| 1 | 理事長 | 高木 厚次 | ○ | ○ | ○ | |
| 2 | 副理事長 | 安部 慎次 | ○ | ○ | ○ | |
| 3 | 副理事長 | 山崎 美和 | | ○ | ○ | ○ |
| 4 | 理事議長 | 後小路 舞 | | ○ | ○ | ○ |
| 5 | 監事 | 江藤 彰悟 | ○ | ○ | ○ | ○ |

5. 組織図

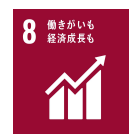


ミッション

事業による公益の寄与 = 県内経済の発展

新規創業、雇用創出、域内消費の拡大、定住・移住の促進、地域経済エコシステムなど、またこれら好循環によるさらなるビジネスアイデア創出

2. ソーシャル・イノベーションについて



そもそも・・・、「ソーシャル・イノベーション」ってなんだっけ？

→社会問題に対する革新的な解決法。

既存の解決法より効果的・効率的かつ持続可能であり、創出される価値が社会全体にもたらされるもの。

【ソーシャル・イノベーションを軸とする理由】

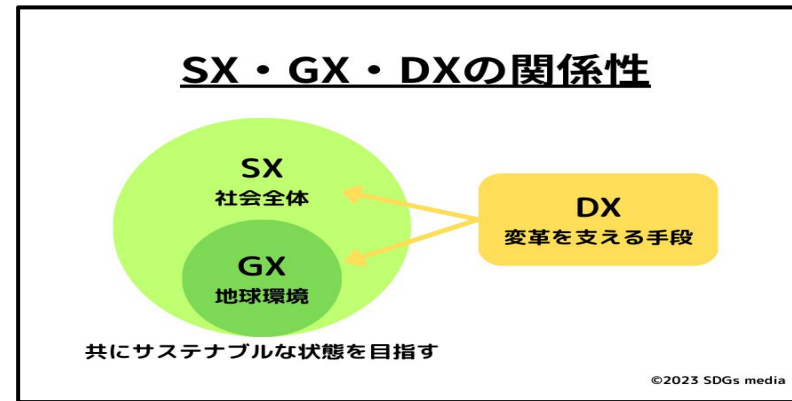
目まぐるしく変転する予測困難な社会に対し、政府・官庁や自治体、企業といった既存の構造(システム)だけでは、質・量・スピードのいずれにも対応不可。社会課題は立場によって考え方が変わるためロジカルに説明できない状況。解決策の客観的な評価や即効性が難しい。最適解に安住せず、新たな課題を模索し、より迅速で柔軟な革新的取組み(トランスフォーメーション)が必要。

革新的取組み(トランスフォーメーション)の成果物 = SX(サステナブル・トランスフォーメーション)

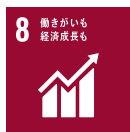
社会のサステナビリティと組織のサステナビリティを「同期化」させていくこと、及びそのために必要な経営・事業変革。

(出典：経済産業省/伊藤レポート)

- ◆SDGsともに「持続的」という意味の言葉が包含。SDGsは持続的な社会、SXは持続的に稼ぐ力を指し、社会的価値と経済的価値という意味で違います。
- ◆GX(グリーン・トランスフォーメーション)はSXの一部であり、DX(デジタル・トランスフォーメーション)はSX/GXを推進する手段。



3. おしラボ。第一次長期経営計画



設立目的を時系列に並べ、「**方向性**(バックキャストिंग)」として設定。事業内容を時系列に並べ、**行動計画**(フォアキャストिंग)として設定。NPO法人としてのミッションを忘れずに、後述の中期経営計画に沿って行動しています。(行動計画の進捗に応じ、3年ごとのアップデートを図る)

<方向性>バックキャストिंग(Compass)

設立目的

超長期で地域に活力をもたらせる
ビジネスアイデアを集合



事業内容

地域活性化を志す者の探索

設立目的

全く新しいビジネスアイデアを創造、融合
「競争」の前に先ず「共創」



事業内容

これまでにない地域活性化ビジネスの
デザイン、開発、テストの支援

設立目的

【おしラボ。の10年後の姿】
大分県独自の産業を新興させる



事業内容

【おしラボ。の10年後の役割】
大分県内にソーシャル・イノベーションを
興す企業の組成に寄与

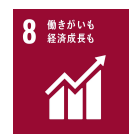
<行動計画>フォアキャストिंग(Action)

ミッション

事業による公益の寄与 = 県内経済の発展

新規創業、雇用創出、域内消費の拡大、定住・移住の促進、地域経済エコシステムなど、またこれら好循環によるさらなるビジネスアイデア創出

4. おしラボ。第一次中期経営計画

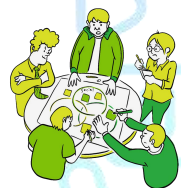


10年後の“目指したい”姿を達成させるための、3年後の“あるべき”姿と目標(KGI&KPI)を設定する。今回は2025年度から2027年度の3年間の事業にて、S Xを軸とした、「超長期で地域に活力をもたらせるビジネスアイデアを集合」と「地域活性化を志す者の探索」をテーマに目標を立て、活動しています。

テーマ①

超長期で地域に活力をもたらせる
ビジネスアイデアを集合

2025年



2027年

テーマ②

地域活性化を志す者の探索

目標：ビジネスアイデアの実務検証(ビジネスコンテストで評価)

KGI・・・3年で3回ビジコンに出場 / KPI・・・各事業毎に1回ビジコンに出場

3年後の“あるべき”姿

(取組) 全く新しいビジネスアイデアを創造、融合、「競争」の前に先ず「共創」できる“ヒト(会員)”、“モノ(環境)”、“コト(アイデア)”が揃っている状況。→「方向性(経営)」の安定性を確保

(結果) 安心して、これまでにない地域活性化ビジネスのデザイン、開発、テストの支援ができるようになる。

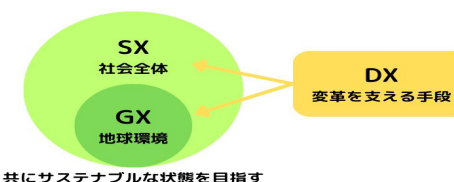
→「行動計画(活動)」の推進力強化を担保

ソーシャルイノベーションに必要な革新的取組み(トランスフォーメーション)の成果物
= SX(サステナブル・トランスフォーメーション)

社会のサステナビリティと企業のサステナビリティを「同期化」させていくこと
及びそのために必要な経営・事業変革。(出典：経済産業省/伊藤レポート)

- ◆SDGsともに「持続的」という意味の言葉が含まれる。SDGsは持続的な社会、SXは持続的に稼ぐ力を指し、社会的価値と経済的価値という意味で違います。
- ◆GX(グリーン・トランスフォーメーション)はSXの一部であり、DX(デジタル・トランスフォーメーション)はSX/GXを推進する手段。

SX・GX・DXの関係性



©2023 SDGs media

目標：地域活性化をもたらすイノベーターやアントレプレナーなどをおしラボ。へ参画

KGI・・・3年でおしラボ。会員が50名 / KPI・・・各事業毎に10名を参画

ミッション

事業による公益の寄与 = 県内経済の発展

新規創業、雇用創出、域内消費の拡大、定住・移住の促進、地域経済エコシステムなど、またこれら好循環によるさらなるビジネスアイデア創出



End of Files